



徳島県勝浦町で発見された日本最古のスッポンモドキ科カメ類化石について

1 概要

福井県立恐竜博物館は徳島県立博物館と共同で徳島県内での恐竜化石発掘調査を進めています。今回、徳島県勝浦町の恐竜化石含有層の発掘調査において、日本最古となるスッポンモドキ科カメ類の甲羅化石が発見されました。

2 化石について

・右下腹甲（図1）

大きさ 前後長 13mm 左右幅 25mm

発見場所 徳島県勝浦町に露出する恐竜化石含有層（ボーンベッド）

発見日 平成30年2月12日

発見者 田上浩久（徳島県化石同好会）

・右第9縁板骨（図2）

大きさ 前後長 9mm 左右幅 9mm

発見場所 徳島県勝浦町に露出する恐竜化石含有層（ボーンベッド）

発見日 平成30年12月15日

発見者 徳島県立博物館職員

3 スッポンモドキ科について

スッポンモドキ科は、スッポン科に最も近縁な淡水生のカメ類です。現在、1属1種（スッポンモドキ：*Carettochelys insculpta*）がオーストラリア北部やニューギニア島の一部にわずかに生息するのみで、絶滅も危惧されているグループです。起源は古く、タイの前期白亜紀の地層（約1億3500万年前）から見つかった化石が最古の記録とされています。その他の化石記録から、新生代にはアジアだけでなくヨーロッパやアフリカ、北アメリカにも分布を広げたことが分かっていますが、最も繁栄した始新世（約5600万～3400万年前）をピークに減少をはじめ、2300万年前以降になると再び化石記録が極端に少なくなります。現在のような姿をしたスッポンモドキ科は、遅くとも始新世には出現していたと考えられています。

4 立川層産化石標本の意義

今回の化石が発見された徳島県勝浦町の立川層は約1億3000万年前の地層であると推定されており、スッポンモドキ科カメ類として国内最古の化石記録です。これまでは福井県勝山市の手取層群北谷層（約1億2000万年前）の標本が日本最古でしたが、それより約1000万年も古い時代にすでに現在の徳島県の辺りにスッポンモドキ科のカメ類が存在していたことが判明しました。

前期白亜紀のスッポンモドキ科カメ類の化石記録は世界的にも貴重であり、今回発見された化石はスッポンモドキ科の起源や初期進化の様子を明らかにするために重要な標本であると考えられます。

今後の発掘調査によって追加標本が得られれば、スッポンモドキ科の進化はもちろん

のこと、恐竜などを含む陸生爬虫類がどのようにして分布を拡大していったのかなど、前期白亜紀のアジア東縁部の様子を解き明かすための重要な手がかりとなることも期待されます。

5 学会発表

日本古生物学会 第169回例会〔開催期間：令和2年2月7日（金）～9日（日）〕

日 時：令和2年2月8日（土）午後1時～2時（ポスター発表）

場 所：東京大学 駒場キャンパス 21KOMCEE EAST

演 題：徳島県勝浦町の下部白亜系立川層より産出したスッポンモドキ科カメ類

発表者：園田哲平（福井県立恐竜博物館 研究員）

辻野泰之（徳島県立博物館 学芸員）

田上浩久（徳島県化石同好会会員）

東 洋一（福井県立大学 恐竜学研究所長・福井県立恐竜博物館 特別館長）

河部壮一郎（福井県立大学 恐竜学研究所 准教授）

中山健太郎（福井県立恐竜博物館 主事）

6 報道関係者向けの化石公開および説明会

日 時：令和2年2月10日（月）午後1時から午後3時まで

場 所：徳島県立博物館3階講座室

徳島県徳島市八万町向寺山（文化の森総合公園）

説明者：園田哲平（福井県立恐竜博物館 研究員）

辻野泰之（徳島県立博物館 学芸員）

7 一般公開

日時：2月11日（火・祝）～3月1日（日）

場所：徳島県立博物館常設展示室 ラプラタ記念ホール内トピックコーナー



図1：勝浦町産のスッポンモ
ドキ科カメ類の右下腹甲



図2：勝浦町産のスッポンモドキ科
カメ類の右第9縁板骨

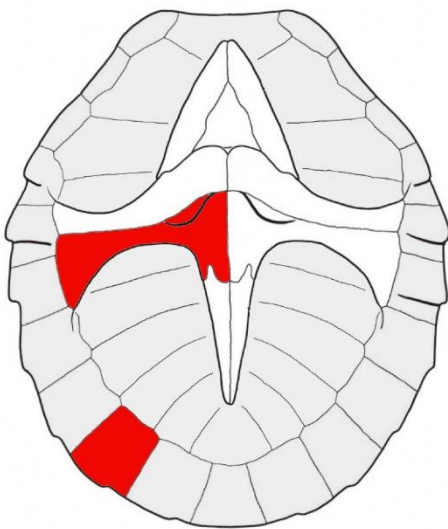


図3：勝浦町産のスッポンモドキ科
カメ類の発見部位（赤色部）

※白亜紀のスッポンモドキ科キジル
クメミスの甲羅をお腹側から見た
図。図の上方向が頭部が出る前方。